

高品質干しいも産地の育成

干しいもの生産は、ひたちなか市、東海村、那珂市、水戸市、大洗町等で行われており、日本一の産地を形成しています。

茨城ほしいも対策協議会（ひたちなか市、東海村）では、研修会において、高品質干しいも生産やほしいも生産三ツ星運動を推進するとともに、新品種「ほしキラリ」の増収現地試験を行いました。

産地の広域化に対応するため、那珂市の生産者に対し協議会への加入を促進し、関係市町村全体での意識共有を図りました。

「ほしいも生産三ツ星運動」で加工食品としての意識改革

干しいもの品質向上、衛生加工を推進するため、保健所と連携して、ほしいも生産研修会を4月と11月に開催しました。

安全・安心な干しいも作りのため、12月の加工時期に三ツ星運動（生産履歴の記帳、衛生加工、適正品質表示）の巡回推進を行い、18名が新規認定され、三ツ星生産者は143名になりました。



加工開始の目安に原料イモの糖度を測定



実証ほの収量調査

新品種の現地実用性検討

農業研究所と連携して、タマユタカと比較して外觀が優れ食味も良く、平成21年に品種登録された「ほしキラリ」の実証ほを、5名の三ツ星生産者のほ場に設置しました。株間を広げ、施肥量を多くすることで増収できることが確認できました。

その他、加工特性が優れ、収量性もある「関東131号」の試験も行いました。

広域化に対応する支援体制づくり

①那珂市の茨城ほしいも対策協議会加入促進

11月に30名で那珂支部が設立

②産地全体で情報交換（写真）

関係市町村全体で、初めての水戸地域干しいも振興担当者会議を開催し、各市町村の生産状況、衛生加工等、広く情報交換を行いました。



保健所から衛生加工の説明